



中越大震災をリアルに再現 そなえを学ぶ おぢや震災ミュージアムそなえ館 リニューアルオープン



—そなえ館リニューアルセレモニーより—
おぢや震災ミュージアムそなえ館がリニューアルオープンしました。(2017年4月23日)

contents

P2-3 特集①

今年度のとりくみ

当機構と各メモリアル施設のとりくみのご紹介

P6-7 シリーズ 防災教育の現場から 第11回 第1期「防災教育コーディネーター養成塾」開催

P8 シリーズ4コマまんが、インフォメーション、施設のご案内、会員募集

P4-5 特集②

おぢや震災ミュージアムそなえ館リニューアル

展示などのリニューアルの様子のご紹介



山古志 おらたる

【いちおしのとりくみ】

- ①震災体験と復興経験の発信
- ②地域の交流促進に向けたゲートウェイ機能強化
- ③地域経営拠点としてのとりくみ



【ひとこと】

おらたる展示室の案内はもちろん、山古志住民ガイド、語り部の派遣を行います。フィールドナビの活用促進、パンフ・SNSによる地域情報発信、地域資源を連携させた企画の実施を通して山古志をさらに盛り上げていきます。



長岡 きおくみらい

【いちおしのとりくみ】

- ①中越メモリアル回廊の視察見学コーディネート
- ②次世代防災学習や地域防災力向上のための支援
- ③震災復興に関する研究

【ひとこと】

学校教育支援や地域防災力向上のお手伝い、中越地域の視察研修コーディネートも行います。今後は他の自然災害の被災地と連携し、復興に関する研究も始まります



今年度の各センター各メモリアル施設 いちおしのとりくみご紹介

中越防災安全推進機構では、震災の教訓伝承、震災を契機とした地域づくり、防災を題材とした人づくりを行っています。ここでは、平成29年度に各センターと各メモリアル施設が行ういちおしのとりくみをご紹介します。

ムラビト・デザインセンター

【いちおしのとりくみ】

- ①長期・短期のインターンシッププログラム
- ②持続的なインターンシッププログラムモデルの構築に向けた検討と実証実験



【ひとこと】

中越大震災復興基金「地域復興人材育成事業」で進めてきた「インターンシップ事業」が最終年度となります。これまで1年間のプログラムで30名、1ヶ月等短期プログラムで56名の若者が、中越の農村の暮らしや仕事を学び、1年のプログラムでは約9割近い方がそのまま地域で定住しました。

今年度は、地域に学び、地域の担い手となる若者の育成を持続的に進めていくためのモデルを作っていきたいと考えています。



川口 きずな館

【いちおしのとりくみ】

- ①『地域のきずな』の収集と活用
- ②地域を活性化するイベントの実施
- ③地域の交流拠点としての機能

【ひとこと】

今年度はより地域と密接な活動を行い、訪れた方に川口のことをより知って頂き、より親しんで頂けるとりくみを目指します。

きずな館主催のイベントはもちろん、「きずな館でこんなことをやってみたい!」という人も自由に使ってもらえます! 誰が訪れても楽しめる施設です。是非お越しください!



小千谷 そなえ館

【いちおしのとりくみ】

- ①防災学習体験プログラム参加の促進
- ②小千谷市内の小中学校での防災教育支援(施設プログラム活用の提案など)
- ③展示リニューアルに合わせた利用者の促進

【ひとこと】

地域の防災学習拠点を目指して、小千谷地域の小中学生の防災学習のお手伝いをするとともに、首都圏、東北各県など県外からの視察研修の受け入れを今まで以上に充実させ、中越の経験を広く全国に発信していきます。



柏崎 まちから

【いちおしのとりくみ】

- ①市民活動センターとしての施設運営
 - ②中越沖メモリアルとして教訓を活かした防災活動
- ※防災教育を通じた学校支援や、自主防災組織への出前講座、語り部の会の結成など。

【ひとこと】

新潟県中越沖地震から10年が経ちます。日頃から行っていない事はイザというときに絶対にできません。日常からできるそなえと一緒に考えてみませんか。これからの地域づくりに役立つ防災のコツを地域とともに考えていきます。



地域防災力センター

【いちおしのとりくみ】

- ①地域防災に資する人材の育成
- ②県内の防災教育自校化100%に向けた支援

【ひとこと】

地域防災の分野では、地域における防災力の強化とすそ野の拡大を図るために、地域で防災講座を行うことのできる人材や防災活動をリードできる人材を育成に重点的にとりくみます。

防災教育の分野では、学校・地域に寄り添い、防災教育への心理的なハードルを低くしながら、学校に定着・継続した状態を目指し支援を行います。



おぢや震災ミュージアムそなえ館 リニューアルオープンしました！

2016年4月23日に「おぢや震災ミュージアムそなえ館」がリニューアルオープンしました。
パワーアップしたそなえ館の展示をあますところなくご紹介いたします！



①被災ゾーン 体験

中越大地震の被災の様子を4D×3D映像でリアルに再現！

②避難ゾーン 電子黒板

地震発生後の避難生活を再現したコーナー。
防災クイズに挑戦してみよう！

③復旧・復興ゾーン 学習

応急仮設住宅の不自由な暮らしを再現。
復興の歩みを紹介しています。

④おぢやのそなえゾーン 電子黒板

震災の経験を活かして災害にそなえる防災の
進化を学びましょう！

★ミュージアムグッズコーナー

★被災マンション再現ブース

⑤復興の軌跡ゾーン 学習

写真や映像で復興のあゆみを振り返ります。

⑥防災学習体験ゾーン 体験

地震動シミュレータで地震の揺れを疑似体験！
日ごろの「そなえ」の技術や知識を学ぶコーナーです。



中越大地震の発災から12年が経過し、当時を知らない世代が多く育っています。震災の記憶と記録を伝える中越メモリアル回廊施設のひとつで、突然の災害に「そなえ、日ごろの「そなえ」ることの大切さを学んでいただく「おぢや震災ミュージアムそなえ館」は開館から6年目を迎えました。昨年、累計来館者数10万人を達成したそなえ館が、新潟県が推進する防災教育プログラムの運用に対応した展示施設へと更新を行い、小中学生の防災教育を支援できる施設として、このたび大規模なリニューアルを行いました。

今回のリニューアルでは、日ごろの備えの大切さを学ぶ施設として、訪れる皆さんをご案内する動線から見直し、地震災害の「発災」から、「避難」、「復旧・復興」、「おぢやのそなえ」、「復興の軌跡」、「防災学習体験」と館内を6つに分け、災害の時間軸を学びながら小千谷地域の被災経験と教訓を学べる構成としています。

目玉は、大震災発生の様子をリアルに再現する4D×3D新体感型シアターを、映画館などを除いた文化施設では全国で初めて導入し、普段の「そなえ」の大切さを、よりパワーアップした演出とともに学んでいただけるようになりました。(発災ゾーン)

また避難ゾーンとおぢやのそなえゾーンには防災学習ライブラリーとして、大型電子黒板を導入し、当時の被災の様子や小千谷市が取り組んでいる災害への備えと一緒に学ぶことができるほか、クイズへの参加などを通じて見学者が考えて参加することで学びを深められるよう工夫されています。

防災学習体験ゾーンにはこれまでの目玉プログラムのひとつだった「地震動シミュレーター」を更新し、記憶に新しい平成28年熊本地震や、将来想定される首都直下地震、南海トラフ地震の波形など、合計で19の地震波形を体感できるプログラムとしてご案内しています。

ほかにも防災工作或防災グッズコーナーを設けて災害時に役立つ身近なグッズづくりを体験していただけるコーナーも用意しており、こどもから大人まで、学びの目的に応じたプログラムが提供できる防災体験学習拠点としてスタートしています。

(おぢや震災ミュージアムそなえ館 赤塚 雅之)

シリーズ「防災教育の現場から」 第11回 第1期「防災教育コーディネーター養成塾」開催 ～中越地震から12年 社会に開かれた教育課程を共に考える人材育成を目指して～

シリーズ「防災教育の現場から」では、県内の小中学校での先進的な取り組み事例を紹介しています。

実施概要

○日 時：①平成29年2月12日(日) ②2月26日(日) ③3月18日(土)
○場 所：①②長岡震災アーカイブセンターきおくみらい ③まちなかキャンパス長岡
○受講生：計45名(うち修了予定：43名)
学校教職員 10名
被災体験者・防災士・防災関連施設職員 23名
公民館・行政・教育系NPO団体職員など 11名

表1：社会に開かれた教育課程（文部科学省）

- ① 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと
- ② これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育てていくこと
- ③ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること

表2：防災教育コーディネーター養成塾 カリキュラム一覧

	事前学習	集合研修	事後学習
第一回	●学校防災の意義とねらい ●学校における防災教育	2/12(日) 13:30～17:00 「防災教育の必要性とその意義」 群馬大学大学院理工学府 准教授 金井 昌信 氏 「学校・地域が連携した防災教育事例」 NPO法人 ふるさと未来創造堂 事務局長 中野 雅嗣 氏	●防災教育プログラムの事例分析
第二回	●防災教育プログラムの学習内容	2/26(日) 10:00～17:00 「地域における防災教育の実践のコツ～プログラム開発手法の基礎知識～」 一般社団法人 防災教育普及協会 事務局長 宮崎 賢哉 氏 「防災学習プログラムの作り方」 「効果測定と評価指標」 公益社団法人 中越防災安全推進機構	●防災教育プログラムの開発
第三回	●学校における防災管理と組織活動	3/18(土) 10:00～17:00 「教育行政と学校組織」 新潟大学教育学部附属長岡小学校 副校長 松井 謙太 氏 「教職員の仕事と被災者心理への理解」 「プロジェクトマネジメント～コーディネーター業務の全体像と流れ～」 公益社団法人 中越防災安全推進機構	●小論文 ～自分はどうのように防災教育に関わりたいか～



▲1日目のワークでお互いのグループの成果を共有



▲2日目講義ではカードゲームでアイスブレイクを行い盛り上がった



▲3日目チームビルディングを学ぶワークでの一コマ



自然豊かな新潟県では、その恵みを受容できる反面、さまざまな災害が起ころうという二面性を持ち合わせている。現在、ふるさと新潟防災教育推進事業（新潟県中越地震復興基金）では、県内全小中学校における防災教育の自校化を目指している。防災教育の特性を鑑み、子どもたちの「生きる力」を育むという視点を踏まえても、学校と家庭・地域の連携は不可欠であると言える。また学校教職員からは、実践のための時間の確保、教材や指導力の不足といった点が課題としてあげられており、外部人材による支援も重要であることがわかる。そのため学校と地域の橋渡し役となる人材が必要なのではないかと考え、教育支援コーディネーターとなりうる人材の育成を目的とした「防災教育コーディネーター養成塾」を開講するに至った。

学校を支援する人材はさまざまであるが、防災教育コーディネーターに求められるのは、防災と学校教育という専門性を活かし、学校と地域資源をつなぐことで、学校地域連携の仕組みを作っていくという役割であり、まさに「社会に開かれた教育課程（※表1）」を考へていく人材の育成につながる。

防災教育コーディネーターは、人と人、学校と地域のヒト・モノ・コトをつなぐ「つなぎ手」の役割を担う人材である。そのため既出の専門的知識の他に、コミュニケーションやファシリテーション能力が大いに求められる。従って、当養成塾でのカリキュラムでは、テキストを用いて知識の習得を図る「事前学

習」、受講生同士で体験的に学ぶ「集合研修」、そして事前学習や集合研修で得た知識の定着を図る「事後学習」のステップを進めるという特徴を持たせ、全三回の研修を実施することとした。

事前学習は、文部科学省の「学校防災のための参考資料『生きる力』を育む防災教育の展開」をテキストとして用いた。学校防災の意義とねらいや学校における防災教育や防災管理についてテキストから出題し、学校でよく使われる用語の理解や、学校防災を取り巻く現状を中心に学んでもらえるように工夫した（※表2カリキュラム一覧）。

集合研修では、講義形式とグループでのワークショップ形式を取り入れ、受講生同士の交流にもつなげた。自分たちの持ちうる教育資源の洗い出しをして共有したり、小生向けのプログラム開発をしたり、インタビューやチームビルディングなどにも取り組んでももらい、学んだ知識や概念などを受講生同士で共有しながら深め合えるような内容のワークを盛り込んだ。

事後研修では、学んだことの定着を図るため、実際に小千谷小学校五年生が実践した防災学習プログラムの事例分析や、中学生向けの防災学習プログラムの開発、これまでの講座の集大成として、自分と防災教育の関わり方や関係人材との信頼関係の構築の仕方などについて問う小論文を課題とした。自身でじっくりと課題に向き合ってもらうことで、知識の定着を図るだけでなく、その知識をそ

の時々状況や課題に合わせて活用する力や論理的思考力なども防災教育コーディネーターには重要だと考えたからである。

かなりハードな研修内容ではあったと思うが、中越地震の被災地での開催であることや、大災害が頻発している昨今の状況もあってなのか、たくさんの方に興味関心を持ってもらうことができ、定員の二倍近い六〇名弱の申込みがあった。運営上の都合により四五名までしか受け付けることができなかったが、年齢も二〇～七〇代、職業もバラエティーに富んでおり、受講生同士で交流するだけでも得るものが大きかったという意見が、受講生からの感想からも多く聞かれたところである。

コーディネーターとしてまず大切なのは、関わる他者との信頼関係の構築にあると思っ

ている。いくら防災に関する知識や技術があっても、それが子どもたちに意味を持って伝わらなければ価値ある学びにはつながらない。学習プログラムづくりには携わる学校教職員や外部人材のそれぞれ立場を理解し尊重することで、初めて信頼関係を結び、子どもたちの良い学びへとつなげることができるのではないだろうか。

「防災教育コーディネーター養成塾」を持続的に開催し、「社会に開かれた教育課程」を共に考える人材を社会には輩出していくことで、少しでも未来を担う子どもたちの「生きる力」の育成に貢献していきたいと考えている。

（地域防災力センター 関谷央子）

《インフォメーション》

【新人職員をご紹介します】

2017年4月より、2名の新人職員が加入しました。



井上 有紀 (いのうえ ゆき)

ムラビト・デザインセンター コーディネーター

東京出身、社会人も運転も雪国暮らしも初心者マークです。趣味は読書と球技。



覚張 裕香 (がくはり ゆか)

川口きずな館 スタッフ

2015年、東京から家族で移住。絶賛子育て奮闘中のワーキングマザー1年生です。

【群馬大学 金井昌信先生の講演がまちからで開催されます！】

東日本大震災の発生以降、小中学校における防災教育の重要性が再認識され、全国各地で防災教育が実施されるようになりました。しかし、その内容を概観すると「災害の危険性」や「避難方法」を教えるだけのものが多いようです。その一方で、「防災」を教育題材の一つと捉えた実践的教育を行うことを通じて、様々な教育効果を上げている学校もあります。

本講座では、全国の先進的な事例をご紹介いただきながら、防災教育の必要性とその意義についてご講演いただきます。

日時：5月24日(水) 15:00～16:45

会場：かしわぎき市民活動センターまちから [中越沖地震メモリアル]

柏崎市西本町 3-2-8 2階交流・活動ルーム3

入場：無料

申込み・問合せ：柏崎市立教育センター (TEL: 0257-23-1168)



《中越メモリアル回廊全体図》



2015年
11月5日開館

中越沖地震メモリアル施設併設
柏崎市民活動センターまちから



旧公会堂の喬柏園(きょうはくえん)に市民活動センターと併せて整備され、地震の経験・教訓とともに、賑わいの再生に取り組む復興の町づくりを伝えます。

〒945-0066
新潟県柏崎市西本町 3-2-8
開館時間 9:30～21:00
メモリアル展示は17時まで
休館日 毎週火曜日 年末年始
TEL 0257-22-2003
FAX 0257-22-2007

会員募集中!

当機構では、地域防災への取り組みや被災地への支援活動に賛同し、応援して下さる会員の方を募集しています。皆様のご入会をお待ちしています。

参加資格：当機構の活動に関心のある18歳以上の方なら、どなたでも参加できます。

会員特典：当機構が主催する研修・講座・イベント等のご案内をいたします。

年会費：正会員 5,000円 個人賛助会員 3,000円 団体賛助会員 100,000円(1口以上)

※申込書は当機構ホームページよりダウンロードできます。

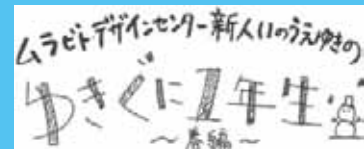
公益社団法人 中越防災安全推進機構 機関紙 <COSSS report> 第18号 2017年5月発行

発行人：諸橋和行 編集：赤塚雅之 阿部巧 関将慶 関谷央子 筑波匡介 中村充 松井千明

〒940-0062 新潟県長岡市大手通2-6 フェニックス大手イースト2F 長岡震災アーカイブセンター-きおくみらい内

TEL: 0258-39-5525 FAX: 0258-39-5526

E-mail: info@c-bosai-anzen-kikou.jp HP: https://www.coss.jp/



→ <https://inacollege.jp/>

まんがの作者



ムラビト・デザインセンター
新人
井上 有紀

施設のご案内

長岡震災アーカイブセンター きおくみらい

〒940-0062
新潟県長岡市大手通2-6 2階
開館時間 平日 10:00～18:00
土日祝 10:00～17:00
休館日 毎週火曜日 年末年始
TEL 0258-39-5525/FAX 39-5526

おぢや震災ミュージアム そなえ館

〒947-0026
新潟県小千谷市上ノ山4-4-2 2階
開館時間 9:00～17:00
休館日 毎週水曜日 年末年始
TEL 0258-89-7480/FAX 89-7485

川口きずな館

〒949-7503
新潟県長岡市川口中山1441
開館時間 10:00～17:00
休館日 毎週火曜日 年末年始
TEL 0258-89-3620/FAX 89-3621

やまこし復興交流館 おらたる

〒940-0204
新潟県長岡市山古志竹沢甲2835
開館時間 9:00～17:00
休館日 毎週火曜日 年末年始
TEL 0258-41-1203/FAX 41-1204